

## 味見読書(1)決められた本を順番にまわして読む

実施日 令和6年5月14日(火)～17日(金)

対象 小学校6年

所要時間 30分(準備時間含まず)

教科・教材名 国語

単元名 イースター島にはなぜ森林がないのか

目的・ねらい

- 学校図書館にはいろいろなジャンルの本があることを知る。
- 今まで自分が読んだことのない本を5分読む。
- クラスメートと同じ本を読んで交流する。
- 単元の導入として関連する本を5分読む。

学校図書館活用のポイント

- 学校図書館内のさまざまな本を収集する。

必要なもの

- 味見読書用の本(クラス人数分+予備数冊)(別紙図書リスト参照)
- タイマー
- 手順を説明した掲示物

参考文献

- 『「味見読書」で本離れが無くなる!』 明治図書出版、2003年、ISBN 9784189075158

当日までに行うこと

- 味見読書用の本を学校図書館で収集しておく。
- 味見読書のやり方について説明した掲示用の紙を作成する。

実践内容	物品	留意点
〈提案〉 4月 教員が「読書活動推進計画」を作成し、学校全体の取り組みとして毎月、味見読書週間を設定した。 6年の担任から、5月の味見読書で上記単元の並行読書となるような本(環境破壊、種の存続)をリクエストされた。		
〈相談〉 1週間前に、1冊を何分読むか、何冊読むか、味見読書後の子どもたちの		グループの人数と読む本の冊数を

<p>交流と発表のやり方について担任と打ち合わせた。当日の席の割り振りは担任が行った。</p>		<p>合わせる。4冊読むなら4人グループとする。</p>
<p>〈準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1週間前に、学校図書館のなかで味見読書に使う本を収集した。</li> <li>● 本を机に置くときには、本の難易度が偏らないようにした。</li> <li>● 絵本など字数の少ない本も必ず入れた。</li> </ul>		<p>今回は、1クラス32人で4冊×8グループとした。</p>
<p>〈実践〉</p> <p>本はあらかじめ机に置いておいた(4冊×8グループ)。味見読書のねらい、ルールややり方について説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 味見読書のルール             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. どこから読んでもいい。</li> <li>2. 全部読めなくてもいい。</li> <li>3. 借りなくてもいい。</li> <li>4. 気楽に読んでみよう。</li> </ol> </li> <li>● 味見読書のやり方             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1冊5分間集中して読む。</li> <li>2. 5分たったら、学校司書または担任が声をかけ、読んでいた本を隣の子に渡す。</li> <li>3. これを繰り返す。3人しかいないグループも本は4冊用意し4人いると思って本を回す。合計20分。</li> </ol> </li> </ul> <div data-bbox="371 1227 753 1496" style="text-align: center;"> </div> <p>読み終わったら、同じグループの児童でみんなにおすすめしたい1冊を決め、本のタイトルと短い感想を発表した。後日、本は、いつでも読めるように、ブックトラックにのせて6年生の教室の近くに展示した。</p>		<p>味見読書に集中するため、他の本は机の上に置かない。</p> <p>発表のときの司会やまとめは担任が行った。</p>
<p>〈結果／児童生徒・教職員の反応〉</p> <p>ふだんはあまり手に取らないような難しいテーマの本だったが、ほとんどの児童は静かに読書に取り組んでいた。</p> <p>児童の反応(アンケートより抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分が普段読まない本に出会えた。</li> <li>● 知らない本を読めてよかった。</li> <li>● 本を少しずつ読めるのはよかったけれど、合計20分は長い。</li> <li>● 1冊5分は長い。時間を短くしてほしい。</li> </ul>		<p>どの本をおすすめするか、話し合うことで自分の感じたことを言語化して確認することができた。</p>